

カラマツ活用ハンドブック』の発刊にあたって

この半世紀、北海道のカラマツは、坑木、足場・杭丸太、パルプチップ、梱包材、ダンネージ、パレットとして重要な役割を果たしてきました。しかし、かつてのカラマツは若木が多く、木材需要に応えるには心許なさ、新たな材料に対する不安もあって、近年の主流となっている一般建築用材など加工材としての歴史はいまだ浅いところです。

そのようなカラマツも、2003年にはエゾマツ・トドマツを上回る道産材供給量の40%に達する144万㎡が供給されるとともに、径級14cm以上の中大径材が4分の3以上を占めるようになりました。さらに植栽面積は45万ha、蓄積量は9,200万㎡まで増加しており、数字から見ても、北海道のカラマツは主役となるべき時を迎えているのです。まさしく、これからがカラマツの旬といえます。

カラマツをマーケットに送りこみ、さらに新しいユーザー(ファン)を開拓するためには、性能や性質の明らかな木材、信頼される木材を継続的に提供する必要があります。それには、『北海道カラマツ』をブランドとして展開するののも一つの方法です。確かな技術に基づくブランドを創りあげ、カラマツの特徴を生かしていくことが重要であると考えます。

カラマツの利用が進んだのと同じくこの半世紀、林産試験場は木材を生かした快適空間の創出、豊かな木の文化の創造に取り組んでまいりました。今後も確かな製品を作る際の裏方としてお手伝いし、あるいは頼もしいパートナーでありたいと考えております。

これらのことを背景として、さらにファンを拡大すべく、林産試験場ではカラマツに係る情報を一冊に取りまとめ、『カラマツ活用ハンドブック』として紹介することとしました。このハンドブックは、カラマツの特徴を生かし、弱点を補い、他の部材と組み合わせ、端材も利用するなど、これまで培ってきたさまざまな技術が集大成されたものと自負しております。

木材は、太陽の恵みを受け、自然や環境と調和して育つ、人々にやさしい素材です。森林所有者・生産者、木材・木製品生産者が協力しあい、努力すれば、カラマツは本道林業、木材産業を代表する素材、木材の名優として、十分な力を発揮するものと信じております。そのために、皆さまと私どもが総力を出し合っていきたいと考えております。

これまでカラマツを支えてこられた林業・木材産業に携わる皆さまに敬意を表しますとともに、林産試験場をご支援いただいた皆さまに深甚の謝意を表し、今後の一層の連携によるカラマツ活用の進展を祈念してごあいさつとします。

2005年 3月
北海道立林産試験場長 甲斐 武治郎